

電子投稿・査読システムについて

A 部門 部門誌編修委員会

1. 電子投稿・査読システムの導入と目的

A 部門では会員へのさらなるサービス向上と研究の原動力となる夢の提供を目指して改革を進めています。こうした取り組みの中で検討を進めてきたのが電子投稿・査読システムの導入です。電子投稿・査読システム導入のメリットは次の5点です。

- (1) 査読者決定までの期間短縮
- (2) 査読期間の短縮
- (3) 郵送に伴う時間をなくし、査読を高速化
- (4) 事務作業の軽減とこれにともなうコスト削減
- (5) 査読状況の可視化

現在、査読者は各月の初めに開催される論文委員会で決定されています。このため、論文委員会の直後に投稿された論文は、翌月の委員会で査読者が決まるまで約1ヶ月待つこととなります。電子投稿・査読システムでは論文委員会メンバーが投稿後、直ちに査読者を決めます。(2)は電子メール機能を使った査読催促で査読期間を短縮します。(3)は郵送に要する期間の短縮です。国内郵便では配送に3日ほどかかるため、往復のやりとりでは6日間を要します。今後は海外からの投稿も積極的に受け入れる方針ですので、期間短縮に電子化は必須です。(4)は郵送手続きや論文査読の紙上の管理をなくすことによる事務作業の削減です。さらに、投稿者は(5)のように、電子投稿・査読システムで、自分の論文の査読状況をいつでも知ることが出来ます。

2. 電子投稿・査読システムの導入スケジュール

電子投稿・査読システムの導入スケジュールについて説明します。平成18年度部門誌編修委員会では、平成17年度委員会からの引継ぎ、電子投稿・査読システムの導入に向けた手順を検討してきました。検討の結果、A部門の広い領域から多くの論文が集まる『A部門大会特集号』(平成19年4月号)で、電子投稿・査読システムを試行することとしました。現在D部門で活用中の電子投稿・査読システムをお借りし、約40件の論文査読を進めています。

平成19年1月からは、A部門で電子投稿・査読システムを導入し、平成20年1月からは電気学会の全部門で導入の予定です。『A部門大会特集号』及び平成19年1月からの導入で、電子投稿・査読システムの課題を洗い出し、A部門にふさわしいシステムへの改良を進め、平成20年1月からは完全導入の予定です。

3. 電子投稿・査読システムの流れ

電子査読・投稿システムでは、紙や郵送を介して行っている投稿・査読に関する一連の作業と手続きを、電子査読・投稿システムのサーバーを介して行います。論文原稿や論文投稿表の提出は、郵送による提出からサーバー上への貼り付けに置き換わります。投稿の受付確認、査読依頼、査読終了などの一連の連絡は電子メールで配信されます。

電子投稿・査読システムを使った投稿及び査読の流れを、図1に示します。簡単な操作方法は4章で説明します。電子投稿・査読システムを活用するためには、このシステムに関

わるすべてのメンバー(主査、幹事、査読者、投稿者)が、個人登録をする必要があります。

投稿者が論文を投稿すると電気学会事務局に投稿のメールが送られ、事務局で論文番号を発行し、投稿者と編修長に、論文番号と投稿受付の完了が通知されます。編修長は専門領域に応じ主査を、主査は領域の細目により論文幹事を、論文幹事は査読者を選び、それぞれが決まるたびに関係者に情報が配信されます。選ばれた査読者は査読に着手します。査読が終わると、査読者から論文幹事、主査へとメールが送られ、主査が査読結果を確認します。ここで、修正などで再投稿が必要な場合は(4)に戻ります。掲載決定の場合は、掲載決定を編修長にメール連絡し、編修長は電気学会に連絡します。

一連の流れは基本的には現在の査読方法と同じです。ただし、投稿論文や投稿表の提出が郵送からサーバー入力になり、必要な連絡が郵便から電子メールに置き換わります。

4. 電子投稿・査読システムの活用方法

投稿方法についての操作方法を説明します。電子投稿・査読システムを使った投稿の流れは、電子投稿・査読システムへのアクセス、投稿者の個人登録、電子投稿、投稿者自身の査読情報の確認、再査読時の再投稿となります。

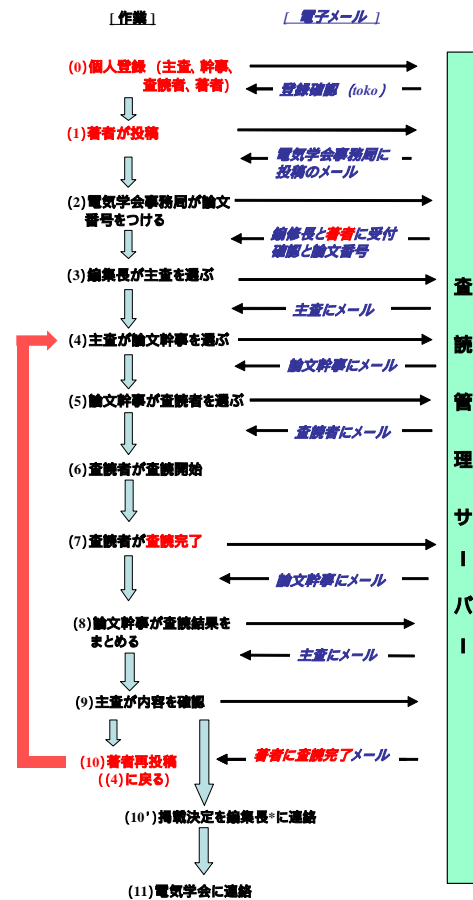


図1 電子査読システムの流れ

の電子投稿・査読システムへのアクセスは、電気学会ホームページ (www.iee.or.jp) にアクセスし、部門のところから『基礎・材料・共通 (A) 部門』をクリックすると、電子査読・投稿システムのメニューが表示されます。

の投稿者の個人登録では、『個人情報の入力と登録番号の取得』で「取得」をクリックします (図 2 (a))。必要項目を入力して「内容確認」をクリックする (図 2 (b)) と内容確認の画面が表示されますので、内容に問題がなければ「登録」をクリックしてください。登録が完了しましたというメッセージが表示され、ID 番号とパスワードが表示されます。また、個人登録者には、送信者が“IEEJ Editorial Section”、タイトルが“Database information notification of IEEJ Paper Management System”のメールが送られ、この中に ID とパスワードが記載されています。この ID とパスワードは次回以降も有効ですので、大切に保管願います (図 2 (c))。



図 2 (a) 個人登録 (1 / 3)

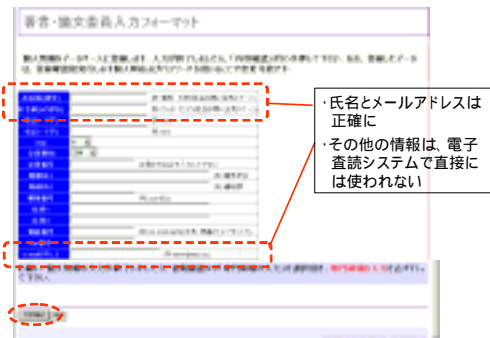


図 2 (b) 個人登録 (2 / 3)

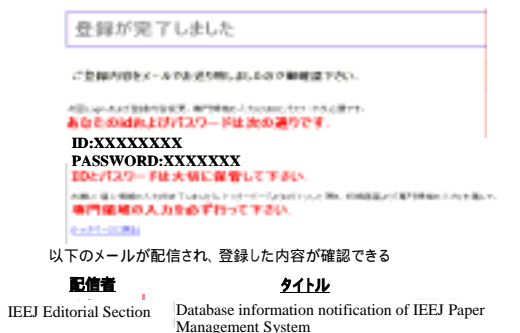


図 2 (c) 個人登録 (3 / 3)

の投稿では、図 2 (a) の画面で個人登録により取得した ID とパスワードを入力し、“submit” をクリックします。これで、電子投稿・査読システムに入れますので、「論文投稿」または「レター論文の投稿」を選択し、“Go” をクリックします (図 3 (a))。論文投稿フォーマットに必要な事項の記入と

投稿論文などの貼り付けを行います (図 3 (b))。著者 1 は必須で、それ以外に査読者とのメールのやり取りを配信したい著者がいれば著者 2 以降に追加し、論文タイトルを入力します。次に、投稿論文、投稿表など投稿に必要な原稿を pdf 形式のファイルで貼り付けます。更に一般論文が特集号かを選択し、「確認」をクリックすると、論文投稿内容の確認が出来ますので、問題なければ「登録」をクリックします。

その他の詳細な使い方につきましては、電気学会ホームページにマニュアルとして掲載の予定です。実際に使用する時には、これを活用願います。

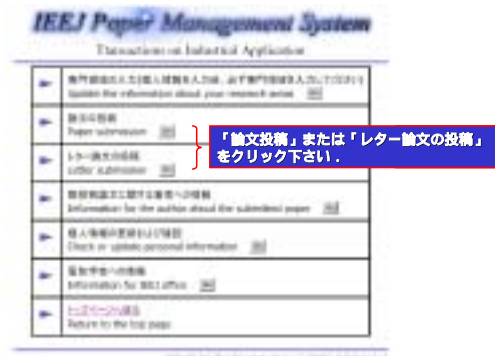


図 3 (a) 電子投稿 (1 / 2)

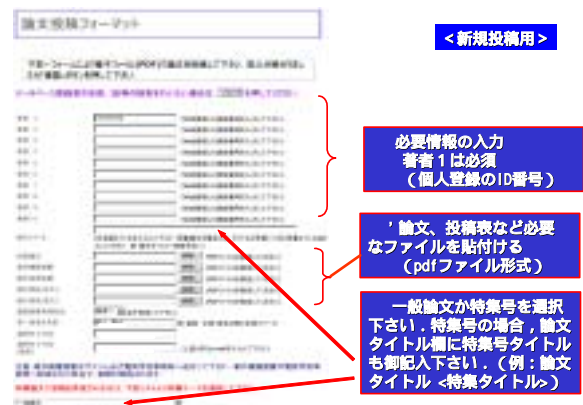


図 3 (b) 電子投稿 (2 / 2)

5. まとめ

論文編修委員会では、電子投稿・査読システムへの理解を深めていただくため、平成 18 年 12 月号、1 月号にも電子投稿・査読システムの説明を継続します。不明な点に関しては、以下の担当にお問い合わせ願います。

高木茂行 E-mail : shigeyuki.takagi@toshiba.co.jp,
TEL : 045-759-1535

西川宏之 E-mail : nishi@sic.shibaura-it.ac.jp,
TEL : 03-5859-8217

鈴木進 E-mail : susumu.suzuki@it-chiba.ac.jp,
TEL : 047-454-9648

電子査読・投稿システムは、基本的には現在の査読方法をサーバーと電子メールに置き換えるツールです。導入当初は操作方法に戸惑うかもしれませんが、使い慣れればそのメリットを実感していただけたらと思います。

平成 19 年 1 月から電子投稿・査読システムが円滑に導入されるように、協力をお願いします。

(編修委員会 幹事 高木茂行)